

2024鈴鹿サンデーロードレース第1戦 RACE REPORT

■開催概要

- シリーズ名称 : 2024鈴鹿サンデーロードレース第1戦
- 主催 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.821km)
- 参加台数 : 総参加台数/235台

CBR250R Dream Cup	22台
CBR250RR Dream Cup	22台
インターJ-GP3	11台 (内、HRC NSF250R Challenge 1台)
ナショナルJ-GP3	12台 (内、HRC NSF250R Challenge 6台)
インターJP250	11台
ナショナルJP250	18台
インターST1000	24台
ナショナルST600	45台
インターST600	16台
ナショナルST1000	28台
インターJSB1000	26台
- 開催日 : 2024年4月20日(土)・21日(日)
- 天候/路面 : (20日)晴れ/ドライ、(21日)曇りのち雨/ハーフウェット→ウェット

★次回レース予定

2024鈴鹿サンデーロードレース第2戦

- 開催日 : 2024年5月18日(土)・19日(日)
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.821km)
- 開催クラス : インターJSB1000(鈴鹿8耐トライアウト)、インター/ナショナルST1000・J-GP3・ST600・JP250、CBR250R Dream Cup、CBR250RR Dream Cup
- 主催 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで
ご購入いただけます。
<http://www.battle.co.jp/>



好天だった土曜日と異なり、雨となった日曜日。J-GP3クラスだけがドライコンディションでの決勝レースとなった

2024鈴鹿サンデーロードレースもついに開幕! 各カテゴリーで熱く激しいバトルが展開された!!

鈴鹿サーキットの2024年シーズン幕開けとなった「NGKスパークプラグ 鈴鹿2&4レース」、続けて翌週には「FUN & RUN! 2-Wheels」も始まった。そしてさらに本格的な春を迎えた4月20日(土)・21日(日)に鈴鹿サンデーロードレース開幕戦が開催された。

シーズンを通じて全レースがフルコースを舞台に開催されるようになった昨シーズン同様、今回も土曜日に全カテゴリーの公式予選とCBR250R/CBR250RR Dream Cupの決勝レース、日曜日にその他の決勝レースが行われる2DAYS大会となった。まず土曜日の決勝2レースは、ともにワンメイクならではの接戦がファイナルラップまで続いた。また、日曜日もウェットコンディションの中、各レースのそこかしこで激しいバトルが展開される、見ごたえたっぷりの2日間となった。

今回もっとも多くの参戦台数を集めたのはナショナルST600だった。45台がエントリーしたこのカテゴリーでは公式予選から激しいタイムアタック合戦が展開され、決勝レースでも各ライダーがストッククラスならではの性能差の少ないマシンを駆ってバトルを繰り広げる姿が見られた。

鈴鹿サンデーロードレースは全日本ロードレース選手権へと繋がる競技志向の強いシリーズ。特にインター／ナショナルJ-GP3はステップアップを目指す若手を含め、各ライダーが熱く激しいバトルを披露するカテゴリーとして知られている。今回もこのカテゴリーのレースでは豊富な経験を持つベテランライダーとしのぎを削る若手ライダーの積極的な走りに注目が集まった。

また、今回は鈴鹿8耐のテストを兼ねたチームがインターJSB1000に参戦。金曜日の特別スポーツ走行から決勝レースまでの3日間を通じてライダーは走行を重ねながら様々なマシンセッティングを試したりと、7月19日(金)から21日(日)に掛けて開催される「コカ・コーラ」鈴鹿8時間耐久ロードレース第45回大会に向けて着々と準備を進めていたようだ。

このインターJSB1000クラスにおいては、次回鈴鹿サンデーロードレース第2戦で鈴鹿8耐選抜レース《8耐トライアウトFINALステージ》も設定されており、さらに激しいバトルが多くの台数で展開されるに違いない。いつもとは違ったライダーも多くの参戦が予想されるインターJSB1000クラスを始め、全11クラス・8レースが行われる第2戦にも是非ご注目ください。



今回も合計3回にわたり、MFJテクニカルアドバイザーである小澤源男氏によるライディング講習会が行われた

■CBR250R Dream Cup

公式予選では上位5台までが2分45秒台をマーク。ポールポジションを獲得した入江高伸が良いクラッチミートを披露し、ホールショットを奪う。9番グリッドスタートの秀崎隆がスプーンカーブで入江をパス。秀崎、4番グリッドスタートの堀絢仁、8番グリッドスタートの片口神月、入江のオーダーでオープニングラップを終了。それに2番グリッドスタートの林規夫、3番グリッドスタートの加藤元紀と続く。片口が3目目の1コーナーでトップに。すぐに秀崎がトップに振り返るが、再び片口が秀崎をパス。しかし秀崎が片口を抜き返す。その後も秀崎、片口を含む9台によるトップ集団はコーナーごとに順位を入れ替えるバトルを展開。そのバトルはファイナルラップまで続いたが、秀崎がトップチェッカーを受けた。



CBR250R Dream Cup表彰式(優勝:秀崎隆、2位:入江高伸、3位:林規夫)



■CBR250RR Dream Cup

岩月寿樹、福井宏至、辻本範行のベテラントリオがフロントローを獲得する。岩月と福井がスタートで飛び出し、横並びの状態でも加速していくが、岩月がホールショットを奪うことに成功する。福井は岩月をぴったりとマーク。その2台がテールtoノーズの状態のままトップグループを形成する。福井は2周目に岩月に若干離されるも、すぐさま岩月のテールを捉え、その勢いそのままこれをパス。さらに岩月を若干引き離すが、再びテールtoノーズの状態になる。その背後では8番グリッドスタートの大倉拓夢と辻本もテールtoノーズの状態でもバトルを展開し、3番手の座を争う。岩月、福井のオーダーでファイナルラップに突入したが、ヘアピンで岩月がミスして福井が前に。その差は一気に広がり、福井が今季初優勝を飾った。



CBR250RR Dream Cup表彰式 (優勝: 福井宏至、2位: 岩月寿樹、3位: 大倉拓夢)



■インター／ナショナルJ-GP3・HRC NSF250R Challenge

保坂洋佑が公式予選で2番手以降を大きく引き離す2分22秒497をマーク。それに続く2番グリッドから10番グリッドまでが2分24秒台と僅差での予選となった。決勝レースでは保坂が良いクラッチミートを披露するが、その横から2番グリッドスタートの村田憲彦が伸びていく。すぐに保坂がトップに立つと、そのまま後続を引き離しにかかる。保坂、5列目13番グリッドスタートの仲村瑛冬、4番グリッドスタートの豊田哲慎のオーダーでオープンニングラップを終了。独走状態になっていた保坂のテールを捉えた仲村が3周目にトップに。その後方では遠藤翔類が針尾大治郎と豊田をパスして3番手に浮上する。保坂と仲村はファイナルラップまでバトルを続け、ほぼ同時にチェッカーを受けたが、仲村の優勝が決まった。



インター-JGP3表彰式 (優勝: 仲村瑛冬、2位: 保坂洋佑、3位: 豊田哲慎)



ナショナルJ-GP3表彰式 (優勝: 遠藤翔類、2位: 針尾大治郎、3位: 戸高綸太郎)

2024鈴鹿サンデーロードレース第1戦 レースレポート(4)

■インター／ナショナルJP250

公式予選では中川涼が唯一の2分31秒台となる2分31秒215をマーク。それにディフェンディングチャンピオンの船田俊希が続いた。決勝レースのスタートで中川がウィリー。3番グリッドスタートの前田誠司がホールショットを奪う。7番グリッドスタートの福井宏至、前田、中川、6番グリッドスタートの南博之、船田、4番グリッドスタートの三浦雄一のオーダーでオープニングラップを終了。2周目になると福井が後続を引き離し、単独トップに。その後方で前田、中川、南が2番手グループを形成する。福井は3周目にその時点でのファステストラップとなる2分42秒654をマークしたが、なんとその福井が5周目のS字で転倒。これにより前田がトップに。ファイナルラップの130Rで前田をパスした中川が優勝した。



インターJP250表彰式 (優勝：中川涼、2位：船田俊希、3位：鈴木悠大)



ナショナルJP250表彰式 (優勝：前田誠司、2位：南博之、3位：三浦雄一)

■ナショナルJP250車両銘柄表彰式



ナショナルJP250車両銘柄表彰式 (Honda賞: 南博之、ヤマハ賞: 前田誠司、カワサキ賞: 松田洋)

■インターST1000

山中将基が公式予選で唯一の2分13秒台となる2分13秒761をマークし、ポールポジションを獲得する。その山中がスタートで良いクラッチミートを披露し、ホールショットをゲット。それに4番グリッドスタートの吉廣光、2番グリッドスタートの片平亮輔と続く。片平は吉廣、山中を立て続けにパスしてトップに立つと、オープニングラップから早くも後続を引き離しにかかる。2番手を走行する山中に続くのは5番グリッドスタートの安達勝紀。6番グリッドスタートの中島陽向が4番手となる。安達が山中をパスして2番手に。そのバトルの間も片平は安定したペースでラップを刻み、盤石の態勢を築く。3周目のシケインで安達がオーバーラン。これによりさらに後続との差を広げた片平がトップチェッカーを受けた。



インターST1000表彰式(優勝:片平亮輔、2位:山中将基、3位:中島陽向)



■ナショナルST1000

公式予選では戸谷健司がその時点でのトップタイムとなる2分20秒038をマークし、マシンをピットに入れてアタックを終了。結局、それがトップタイムとなった。決勝レースではその戸谷と4番グリッドスタートの池田寛之が横並び状態で1コーナーへ。池田がトップに立ち、それに2番グリッドスタートの中野涼真、戸谷と続く。池田が後続を引き離しにかかるが、シケイン進入では中野が前に。中野、池田、戸谷のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。中野は独走状態に。15番グリッドスタートの小森直樹が中野に続く2番手に浮上。その小森を永山翔太がパスする。永山はトップの中野にも急接近し、ファイナルラップのS字でこれをパス。中野がシケイン進入でトップに振り返り、トップチェッカーを受けた。



ナショナルST1000表彰式(優勝:中野涼真、2位:永山翔太、3位:小森直樹)



■ナショナルST600

44台のフルグリッドを巡って、45台がアタックを繰り広げるという厳しい公式予選となったST600。ポールポジションスタートの富江慧が絶妙なラッチミートを披露してオープニングラップから後続を引き離しにかかるが、2周目に転倒したマシンが複数台あったことにより、赤旗が出されてレースは中断される。仕切り直しとなり、6周で争われたレースでも富江が良いスタートを切るが、2番グリッドスタートの西山尚吾がトップに。西山と富江が2台によるトップ集団を形成。そこに楠留維と細谷匠が接続する。その4台がテールtoノーズ状態で走行するが、再び西山、富江が楠と細谷を引き離すことに成功。西山が徐々に独走状態となる。富江がファイナルラップで大逆転を果たして優勝を決めた。



ナショナルST600表彰式(優勝:富江慧、2位:西山尚吾、3位:細谷匠)



■インターST600

千田俊輝が公式予選で2番手を降を1秒335引き離す2分14秒985をマーク。それに丹羽貴大、ディフェンディングチャンピオンの村瀬豊と続く。決勝レースでは千田と丹羽が良いスタートを披露。その2台の若干後方を4番グリッドスタートの平城雄飛が走る。千田、平城、丹羽のオーダーでオープニングラップを終了。村瀬、5番グリッドスタートの鈴木慎吾、8番グリッドスタートの大中真次がそれに続く。村瀬が丹羽と平城をパスして2番手に。鈴木も丹羽、平城、さらには村瀬をもパスする。鈴木は独走状態を築いていた徐々に千田にも接近し、4周目のヘアピンでこれをパスしてトップに浮上。福田琢巳が千田に続く2番手となる。鈴木はファステストラップを刻みながら後続との差を広げ続け、堂々の優勝を飾った。



インターST600表彰式(優勝:鈴木慎吾、2位:福田琢巳、3位:千田俊輝)



■インターJSB1000

中村修一郎が公式予選で2分11秒台を連発してポールポジションを獲得。決勝レースではその中村(修)が良いクラッチミートを披露してホールショットを奪う。それに4番グリッドスタートの高橋直輝、2番グリッドスタートの羽根巧と続く。高橋がS字で中村(修)をパス。単独状態となった高橋、羽根、中村(修)のオーダーでオープニングラップを終了。6番グリッドスタートの中村敬司が4番手で続く。2周目に羽根と中村(修)が転倒。これにより中村(敬)が2番手に浮上する。長谷川修大と遠藤晃慶が3番手の座を争う。長谷川がペースアップし、中村(敬)をパスして2番手に。高橋はファステストラップをマークしながらトップを独走。結局12秒310ものアドバンテージを築いた高橋が堂々の優勝を決めた。



インターJSB1000表彰式(優勝:高橋直輝、2位:長谷川修大、3位:中村敬司)



Voice of Pick up Riders -SUNDAY EDITION-

この日、キラリと光った
ライダーに一问一答

この日、キラリと光ったライダーに一问一答
「Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-」

CBR250RR Dream Cupで優勝した

福井 宏至 選手

(YTR+JUBET/Honda CBR250RR)



Q. 公式予選では岩月寿樹選手とふたりだけが2分35秒台をマーク。2番手タイムでしたね。

A. ふたりの争いになることはわかっていました。良いタイムはもちろん狙っていましたが、フロントローに並べることができれば十分だとも考えていたので無理せず走りました。

Q. 決勝レースではオープニングラップからファイナルラップまで何度も順位を入れ替えつつ、トップを争うバトルが続きました。

A. 決勝も岩月選手と一騎打ちになることがわかっていました。5周目ぐらいまでに引き離すことができればと考えていましたが、そのような展開にはなりません。ファイナルラップのヘアピンで岩月選手がミスし、前に出られたのはラッキーでした。

Q 昨シーズンはこのカテゴリーではランキング3位でした。今シーズンはどのように戦いますか。

A. 第2戦以降もこのままの調子をキープしてチャンピオンを獲得できると良いなと思っています。昨シーズンはナショナルJP250でチャンピオンを獲得できたので、今シーズンはJP250とこのカテゴリーのダブルチャンピオンを狙っていきます。